

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200644		
法人名	医療法人 弘和会		
事業所名	グループホーム星の子(スピカ)		
所在地	岡山県倉敷市福田町古新田813-9		
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 5 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200644-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200644-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース		
所在地	岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 2 年 11 月 26 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○自由を束縛されていると感じないように、また、思ったときに気分転換に出られるようにドアを開放しており、自由に入りができるようにしている。  
 ○本人やご家族様から話を聞く機会を多く持ち、これまでの生活ができるだけ継続できたり、やりたいことが実現できるような取り組みをしている。  
 ○入居者の担当制が定着しており、担当スタッフが中心になり、入居者の要望を聞き取ったり、状態に合わせて話し合いが行われている。  
 ○現在の生活が維持できるように、リハビリスタッフに指導をしてもらっている。  
 ○入居者自身の生活の場として、調理、洗濯、掃除などの家事はできるだけ関わってもらえるように働きかけ方を見直している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で外出行事等を減らさざるを得ない状況の中、家族へ積極的に内部情報を伝えたり、2ヶ月に1回、運営推進会議の参加メンバーに返信ハガキを送付して意見や要望を集めたりするなど、出来るだけ外部との接点が途切れないように工夫している。また、気分転換を兼ねて職員と一緒にドライブへ出かけたり、事業所周辺を自由に散歩したりするなど、今まで通り解放感に満ちた生活が出来るように取り組んでいる。そして、各居室やユニットに加湿器及び温度・湿度計を設置し、こまめな換気を行うことで利用者の健康を維持すると共に、衛生的にも優れた環境を整えることで心身のリフレッシュにも繋がっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示している。 年度初めの会議で、全職員に伝え確認する機会を設けている。 入居者の処遇で迷ったときに、立ち返って確認をすることもある。	玄関に理念を掲示し職員に周知すると共に、日々の活動を通じて共有・理解している。新しい職員には最初に理念を説明し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で、地域の行事がなく、交流ができていないが、普段は地域の祭りに参加したり、小学校や幼稚園と交流をしている。 町内の掃除の参加している。	しばしばボランティアから連絡があるが、現在は控えている。また、近くの公園や役所に出かけたり、近隣の山でおやつを食べたりするなど、外部との繋がりが途切れないように工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症マイスターや中学生の実習を受け入れている。認知症のことや認知症の方のかかわり方について話をし、認知症の方の理解を伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は会議に来ていただくことができていない。状況報告は、書面や写真で報告し、できるだけ知っていただく努力はしている。	2ヶ月に1回、事業所の状況をまとめた書類を会議の参加メンバーに郵送している。また、返信ハガキを同封し、意見や要望等を募ることで、繋がりが保てるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	倉敷市の担当の方に、面会のことや推進会議の開催の仕方などについて相談し、意見をいただいている。	市担当者へコロナ禍における現状や取組状況等を電話連絡しながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修をしている。玄関のドアは鍵をかけず、いつでも出られるようにしている。 ユニットから出ていかれる方がいるが、本人の行動を制限せず、施錠をしないで見ていくためにどうするかを話し合った。	3ヶ月に1回、管理者が資料を作成し、身体拘束の研修を行っている。事業所内は玄関の施錠を含めて全て開放しており、拘束しないケアが実践できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で研修を行っている。グレーゾーンと言われる介護について話し合い、自分たちの介護を見直す機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている入居者がいるので、どういものか知るために、会議で取り上げて伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方と話し、解りやすく、疑問点を尋ねながら説明をしている。 改定の際は来訪していただき、一人一人に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話をしている中で聞かれた内容や要望を申し送りに記入したり、担当者会議で援助内容に加え、反映できるようにしている。 運営推進会議に参加していただき、意見を聞く機会を設けている。	家族へ状況報告書と返信ハガキを送付し、意見等を募っている。また、利用者は一対一（散歩等）の時に聞き取っている。モップ掛けやゴミ捨て等、出来ることは日常生活の中で反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営会議や全体会議で意見を聞く機会を持っている。 管理者とスタッフで面談を行い、意見を聞く機会を設けている。	毎月の会議や面談の中で、出来るだけ本音が引き出せるように取り組んでいる。職員の意見や提案により、外出して弁当を食べたり、おやつを一緒に作ったりする機会が以前より増えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回以上は面談を行い、スタッフが思っていることを聞く機会を設けている。 業務内容はスタッフの意見を聞きながら決定し、働きやすいように改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は外部研修に参加ができないので、必要と思われることは会議で話し合うようにしている。 個々に必要なことは、普段の勤務の中で伝えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設と交流したり、見学に行ったりできるように勤めているが、近隣の施設も立ち入りを中止しており、今年はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族から困っていることや要望を尋ねている。入居後は関わる時間を多く持ち、必要としていることや要望を聞き取り、安心して過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で不安に感じていることや、生活に対する要望などを聞き取るようにしている。入居後は、できるだけ早い段階で、来訪時や電話で様子を伝え、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していた担当ケアマネジャーや医療関係者などと連携を取り合い、必要な支援を見極めている。必要に応じて、併設のリハビリスタッフに相談し、意見をいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の居室の片付けや掃除、洗濯、調理などを、入居者の能力に合わせて、できることを一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や状態を伝え、本人の様子を知っていただいている。季節ごとの衣類の入れ替えはお願いしている。状態に変化があるときは、来訪していただき、今後の方針を一緒に話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があるときは電話を掛けたり、手紙を出したりできるように支援している。会いたい人の名前が聞かれた時は家族に伝え、協力をお願いすることがある。	家族とオンラインで面会したり、コロナ禍のため面会に行けないと思っている友人達へ連絡したりする等、疎遠にならないよう支援している。また、中庭にテーブルを設置し、面会に来た家族や友人たちと話ができる様に工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人と一緒に過ごすことができるように机の配置を工夫している。入居者同士が関わり、会話が楽しめるように、スタッフが仲立ちをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に訪問をしたり、入居時の経過を伝えるなどしている。 退居後も手紙を送ったり、近況を尋ねるなどし、関係が途切れないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者担当が主になり、普段の会話の中で聞かれた要望や意向をケアに反映させている。 言葉で表現できない方は、様子を観察する中で、どういう思いなのか考え、話し合うようにする。	利用者と一対一(入浴等)の時に思いや意向を把握している。食べたい願望が多く、弁当の日を月1~2回設けたり、希望等の把握が困難な場合は、利用者に細かく働きかけながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、これまでの生活歴や暮らし方を本人や家族に尋ねている。普段の会話の中で聞かれたことや疑問に思ったことは家族に尋ねるようにし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望する一日の過ごし方を介護記録に入れ、本人の生活リズムに合わせた介護ができるようにしている。心身の状態や言動を記録に残し、把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞き、入居者担当とケアマネが中心になり、プランを作成している。必要に応じて、リハビリスタッフなど他職種のスタッフからも意見をいただいている。	基本3ヶ月に1回、各担当職員がモニタリングを行っているが、利用者の状況によって縮めることもある。ユニット会議や担当職員等から聞き取った意見や提案をまとめ、個々の状況に合ったプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者から聞かれた話の内容や表情などを記録に残すようにしている。気になる様子があるときや薬が変更になった時は、申し送りノートに記入し、情報共有ができるようにしている。様子を観察し、変化に気づけるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会話の中で聞かれた要望に対応し、外出している。病院受診や散髪など必要に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や屋内には出かけられないが、屋外でくつろげる場所やトイレが整備されている場所を日頃から気にかけて探している。食べることが好きな方、花を見るのが好きな方など、個々の興味に合わせた支援ができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、これまでのかかりつけ医を継続するかどうかを話し合い、決定している。認知症の症状で受診が必要と思われるときは、家族と一緒に、専門医を受診している。	ほとんどの利用者が以前のかかりつけ医を継続している。また、送迎や専門医への受診等、家族の希望に合わせて適切な医療が提供されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違う様子が見られるときは、状態を報告し、受診が必要な状態かどうか相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	現在はできないが、通常は週1回はお見舞いに行っている。 入院した時には、情報提供を行い、日常の様子や認知症の症状など伝えている。 ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、施設で見ている状態を判断し、退院を決定している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。 入居前に事業所でできることを伝え、家族の意向を聞いている。 状態変化が見られたら、その都度、事業所で対応できることを伝えながら、話し合いをしている。	入居時、利用者及び家族へ看取り支援は行っていない旨を説明し、同意を得ている。利用者の状態・状況が変化した時はその都度、家族と密に連絡を取り合いながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議で急変時の対応について研修している。緊急時対応についてはマニュアルを作り、電話のそばに置き、慌てないで対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、避難の仕方を確認している。 家族に災害時の連絡方法や避難場所を知らせている。	年2回、夜間想定の下、消火及び避難訓練を行っている。また、災害マニュアルや避難経路図を整備し、3日分の食料も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入るときには、部屋の中にいなくても入ることを伝えてから入室するようにしている。 トイレの声掛けは大きな声で行わないようにしている。 不適切と感じたときは、その時に伝えて改善を促している。	入室時の声かけやノック、入室後の施錠、会話時の声の大きさ等、利用者を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応に取り組んでいる。	ユニット内で出来るレクリエーション等の創出に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動の前には、○○してもらって良いですか？と尋ね、意思の確認をしている。 飲み物やおやつは好きなものが選べるように数種類の物から選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間シートを基に、個々の生活リズムに合わせた業務にしている。 起床、就寝時間は本人のペースに合わせて行っている。食事時間をずらすこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選び、その時の気分に合わせて衣類が着ていただけるように支援している。出かけたり、イベントの時にはおしゃれをしたり、お化粧をしたりしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の準備から一緒にしたり、ホットプレートで焼きながら食べてもらったりし、食事の雰囲気も楽しめるように工夫をしている。	月2～3回自由献立の日を設けたり、弁当を買って外で食べたり、誕生日に好きな物を提供したりする等、食事時間が楽しくなるように支援している。また、残存機能を活かして洗い物や盛り付け等ができる利用者には調理場に立ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックをしている。水分摂取が進まない方には、量や回数を工夫し、好きなものやゼリーなどを提供している。 義歯がない方もペーストではなく、形のある食事を楽しんでもらえるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。スポンジやうがい薬を使用される方もいる。 希望される方は訪問歯科にて治療、口腔ケアをしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行い、できるだけ、トイレで排泄できるようにしている。自分でトイレに行かれる方は、パットの種類を考え、自分で上げ下ろしができやすいようにしている。	個々の排泄パターンを把握し、日々トイレ誘導することで自立排泄を促している。また、個々に合わせてパット類を用意しており、状態に合わせた支援が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方はできるだけ水分が摂取できるようにしている。 散歩や体操に誘い、身体を動かすようにしている。 本人に合った下剤を処方してもらい、調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回以上は入浴できるようにしている。 個々のタイミングに合わせて、希望を聞きながら誘っている。入浴が好きでない方は、時間に縛られず、繰り返し声をかけている。 入浴剤を準備し、使用している。	週3回入浴支援に取り組んでおり、浴室を暖め温度差が無い環境をつくることで、入浴しやすくしている。入浴を嫌がる利用者には言葉かけを工夫したり、職員を変えたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた様子があるときは、休息していただいている。 日光浴をしたり、日中の活動を見直しことで、安眠できるようにしている。個々のタイミングで眠れるよう、就寝の声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書は、いつでも見ることができるよう個人ファイルに閉じている。薬の変更があった時は、申し送り、状態確認に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事は生活に必要な仕事として関わっていただいている。生活歴から、調理や縫物など得意なことに関わってもらえるようにしている。 趣味、やりたいと言われることは誘い、希望をかなえられるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年は買い物や食事には出かけられないが、屋外で散歩できる場所に出かけている。自分が食べたい弁当やおやつを買い、公園で食べることもある。 家族と一緒に墓参りや、親戚の人に会いに行くこともある。	訪問理容の方に来て頂いてテラスで散髪したり、敷地内を散歩したり、近くの公園や山へドライブに出かけたりするなど、個々の希望や状況を把握しながら、外出支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、お金は持たないことになっている。手持ちのお金がなくても不安を感じないでいられるような声掛けをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは、電話をかける手伝いをし、話をしていただいている。家族や親せきのことが気になるときは、手紙を書くことを提案することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの場所が、快適な温度になるように温度調整をしている。話し声やテレビの音が不快に感じることもあるので、席の配置を工夫したり、音量調節をしている。自分たちの写真を掲示し、楽しめるようにしている。	コロナ禍の中、利用者が快適・健康に過ごせる様、各ホールに加湿器を設置するなど、環境整備に取り組んでいる。また、ソファや席の配置を工夫したり、季節の飾りつけや各利用者の顔写真を掲示し、利用者同士で会話ができるスペースを作ったりするなど、居心地よい空間が広がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや席の配置を工夫し、自分が過ごしたい場所を選んで、過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある家具や写真などを持ってきていただき、居心地よく過ごせる様になっている。一人でゆっくりテレビを見たい方は、居室に持ち込んでいただいている。冬は加湿器や毛布を持ってきてもらい、快適に過ごせる様になっている。	馴染みの家具や加湿器等が配置され、個々に居心地良く安全な空間作りとなっている。また、日々窓を開けて換気したり、温度・湿度計を設置し快適・健康に過ごせる環境づくりに努めるなど、気持ちよく生活できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器や車いすの方が安全に移動できるように通路を確保している。トイレの場所がわかるように表示している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200644		
法人名	医療法人 弘和会		
事業所名	グループホーム星の子(オリオン)		
所在地	岡山県倉敷市福田町古新田813-9		
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 8 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200644-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200644-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース		
所在地	岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 2 年 11 月 26 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○自由を束縛されていると感じないように、また、思ったときに気分転換に出られるようにドアを開放しており、自由に入りができるようにしている。  
 ○本人やご家族様から話を聞く機会を多く持ち、これまでの生活ができるだけ継続できたり、やりたいことが実現できるような取り組みをしている。  
 ○入居者の担当制が定着しており、担当スタッフが中心になり、入居者の要望を聞き取ったり、状態に合わせて話し合いが行われている。  
 ○現在の生活が維持できるように、リハビリスタッフに指導をしてもらっている。  
 ○入居者自身の生活の場として、調理、洗濯、掃除などの家事はできるだけ関わってもらえるように働きかけ方を見直している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で外出行事等を減らさざるを得ない状況の中、家族へ積極的に内部情報を伝えたり、2ヶ月に1回、運営推進会議の参加メンバーに返信ハガキを送付して意見や要望を集めたりするなど、出来るだけ外部との接点が途切れないように工夫している。また、気分転換を兼ねて職員と一緒にドライブへ出かけたり、事業所周辺を自由に散歩したりするなど、今まで通り解放感に満ちた生活が出来るように取り組んでいる。そして、各居室やユニットに加湿器及び温度・湿度計を設置し、こまめな換気を行うことで利用者の健康を維持すると共に、衛生的にも優れた環境を整えることで心身のリフレッシュにも繋がっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示している。 年度初めの会議で話し合いをし、共有できるようにしている。	玄関に理念を掲示し職員に周知すると共に、日々の活動を通じて共有・理解している。新しい職員には最初に理念を説明し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段は地域の祭りや行事に参加したり、近所のスーパーに買い物に行ったりしている。 地域の方がボランティアの方が来てくださっている。	しばしばボランティアから連絡があるが、現在は控えている。また、近くの公園や役所に出かけたり、近隣の山でおやつを食べたりするなど、外部との繋がりが途切れないように工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症マイスターなどの実習生や中学生のボランティアを受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	普段は会議に参加して下さっている方がボランティアに来て下さっている。 地域の行事などの情報交換をしている。	2ヶ月に1回、事業所の状況をまとめた書類を会議の参加メンバーに郵送している。また、返信ハガキを同封し、意見や要望等を募ることで、繋がりが保てるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方に推進会議に参加していただいている。	市担当者へコロナ禍における現状や取組状況等を電話連絡しながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を定期的に行い、職員と話し合いをしている。ケアをする中での疑問なども話し合いをしている。玄関のドアは開放し、いつでも出入りできるようにしている。	3ヶ月に1回、管理者が資料を作成し、身体拘束の研修を行っている。事業所内は玄関の施錠を含めて全て開放しており、拘束しないケアが実践できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修の場で、皆で話し合う機会を設け、理解できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の研修で1年に1回は行い、理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方と話し、解りやすく説明している。改定の際も来訪していただき、一人一人に説明をしている。わからない点などを尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議に参加していただく機会を設け、意見や要望を聞くようにしている。	家族へ状況報告書と返信ハガキを送付し、意見等を募っている。また、利用者は一対一(散歩等)の時に聞き取っている。モップ掛けやゴミ捨て等、出来ることは日常生活の中で反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営会議や全体会議を定期的に行い、意見交換をしている。	毎月の会議や面談の中で、出来るだけ本音が引き出せるように取り組んでいる。職員の意見や提案により、外出して弁当を食べたり、おやつと一緒に作ったりする機会が以前より増えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人と話し、意見や要望などを聞くようにしている。業務の見直しなどを行いながら、働きやすい環境づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にできるだけ参加するようしたり、全体会議で必要な研修を行ったり、スタッフ自身が疑問に思うこと興味のあることを課題にあげ、研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの推進会議に参加し、情報交換や意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族から要望を聞くようにしている。面会時に一緒に話をするように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、要望などを聞き、星の子のできる対応を伝えている。入居後は、面会時や電話で様子を伝え、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に担当していたケアマネージャーや医療機関などと連絡を取り、必要な支援を見極めるようにしている。 併設のリハビリのスタッフから意見をいただくこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中でできることを見つけ、一緒に行っている。一人一人の状態の変化時など話し合いをしながら、できることを見つけ、関わりを持ちながら取り組めるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段と違う様子が見られるときの受診に同行していただいている。 担当者会議に参加していただき、状態を知っていただく機会を持てるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナのためできていないが、友人が訪ねてこられ、毎週なじみの場所へ、外食に行かれる方がいる。	家族とオンラインで面会したり、コロナ禍のため面会に行けないと思っている友人達へ連絡したりする等、疎遠にならないよう支援している。また、中庭にテーブルを設置し、面会に来た家族や友人たちと話ができる様に工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と話ができるように座る場所を配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居が継続できなくなった方の転居先を家族と相談しながら探している。 受け入れが決まった施設への情報提供や入居後の様子を尋ねるなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの様子を家族などから聞き、会話やかかわりの中から、生活の様子や要望を引き出し、スタッフ間で共有し、介護に反映できるようにしている。	利用者と一対一(入浴等)の時に思いや意向を把握している。食べたい願望が多く、弁当の日を月1~2回設けたり、希望等の把握が困難な場合は、利用者に細かく働きかけながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴を聞き、24時間シートを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせ、できることなど一緒に取り組み、記録に残し、スタッフ間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度モニタリングを行い、状態変化があるときは、その都度話し合いをし、プランの変更やケアの統一を図っている。 毎月、ユニット会議でも個別に話し合っている。	基本3ヶ月に1回、各担当職員がモニタリングを行っているが、利用者の状況よって縮めることもある。ユニット会議や担当職員等から聞き取った意見や提案をまとめ、個々の状況に合ったプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなどを記録に残し、対応できるよう情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望を聞きながら、その日の状態に合わせて、買い物や外食などを取り入れている。現在は外出が難しいため、施設内でできることを考え支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段は地域のイベントに参加したり、スーパーやコンビニに出かけている。 月担当のスタッフが季節に合わせた外出を計画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続している方もおり、家族や本人が希望する病院へ受診できるように支援している。 受診にはスタッフが付き添い、現在の状態が伝えられるようにしている。	ほとんどの利用者が以前のかかりつけ医を継続している。また、送迎や専門医への受診等、家族の希望に合わせて適切な医療が提供されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化がみられるときには、その都度相談し、連携を取っている。 必要に応じて、受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供書を渡し、普段の状態を伝えている。 現在はコロナのためできないが、お見舞いに行き、家族や病棟の看護師と話し、情報提供をもろうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、家族の方の意向を確認している。 状態が変化したときは、その都度、家族と話し合いをするようにしている。	入居時、利用者及び家族へ看取り支援は行っていない旨を説明し、同意を得ている。利用者の状態・状況が変化した時はその都度、家族と密に連絡を取り合いながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作り、目の届くところに置いている。研修を行い、スタッフが理解できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、職員が理解できるように努めている。 災害マニュアルを作成し、非常時でも対応できるように目の届くところに置いている。	年2回、夜間想定の下、消火及び避難訓練を行っている。また、災害マニュアルや避難経路図を整備し、3日分の食料も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に合った声掛けを工夫している。声のトーンや大きさなどにも注意している。トイレに入っていることがわかるように札をかけ、プライバシーに配慮している。	入室時の声かけやノック、入室後の施錠、会話時の声の大きさ等、利用者を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応に取り組んでいる。	ユニット内で出来るレクリエーション等の創出に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己決定できるよう、声かけを工夫している。言葉の表現が難しい方には、表情などからくみ取ることができるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活リズムを把握し、その人に合わせた対応できるようにしている。居室でゆっくり過ごす時間も持てるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでいただいたり、一緒に服を買いに行ったりしている。髪をといたり、髭剃りをしたり、自分でできることはしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮をむく、刻む、おかずを盛り付けるなど一緒にできることを行いながら、食事が楽しみにつながるように支援している。自由献立や弁当の日を作り、食べたいものや季節に合った食材を提供できるようにしている。	月2～3回自由献立の日を設けたり、弁当を買って外で食べたり、誕生日に好きな物を提供したりする等、食事時間が楽しくなるように支援している。また、残存機能を活かして洗い物や盛り付け等ができる利用者には調理場に立ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合わせた食事形態で提供している。水分量、食事量を記録し、体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをしている。個々に応じた道具を使用し、清潔が保てるように支援している。訪問歯科にて、口腔衛生指導にて口腔内の状態を保持している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンにを把握し、トイレで排泄ができるよう努めている。 パット類も一人一人の状態にあったもので対応している。	個々の排泄パターンを把握し、日々トイレ誘導することで自立排泄を促している。また、個々に合わせてパット類を用意しており、状態に合わせた支援が出来る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物を工夫したり、散歩や個々に合った運動を取り入れ、なるべく自然な排便を促している。 便秘がちな方には、本人に合った下剤で調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯を工夫しながら、午前、午後で希望に合わせて入っていただいている。	週3回入浴支援に取り組んでおり、浴室を暖め温度差が無い環境をつくることで、入浴しやすくしている。入浴を嫌がる利用者には言葉かけを工夫したり、職員を変えたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要な方には、居室にて休んでいただくようにしている。 その日の体調や睡眠時間によって日中の対応ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時には、記録に残し、申し送りで情報共有できるようにしている。 個人記録に薬の情報書を入れ、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段は、行きたい場所や食べたいものが食べられるように外出支援をしている。コロナのため、近所を散策したり、ドライブ外出、弁当の日、自由献立の日を設け、少しでも楽しみを持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	会話の中から、要望を聞き出すようにし、要望に合わせて、散髪や外食に出かけるようにしている。現在は外出も難しいため、散歩したり、ドライブに出たり、気分転換が図れるように支援している。	訪問内容の方に来て頂いてテラスで散髪したり、敷地内を散歩したり、近くの公園や山へドライブに出かけたりするなど、個々の希望や状況を把握しながら、外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く際は、立て替えにて対応しており、基本的には、お金は所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があるときには、電話をしていただけるよう支援している。コロナで面会ができにくいので、オンライン電話を利用し、顔が見えることで安心できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには毎月壁画を一緒に作り、写真を飾ったりしている。季節の花や野菜を置き、季節感を感じられるようにしている。	コロナ禍の中、利用者が快適・健康に過ごせる様、各ホールに加湿器を設置するなど、環境整備に取り組んでいる。また、ソファや席の配置を工夫したり、季節の飾りつけや各利用者の顔写真を掲示し、利用者同士で会話ができるスペースを作ったりするなど、居心地よい空間が広がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや机の配置を工夫し、気の合う方と一緒に話をしたり、TVを見たりして過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただき、個々に合わせて家具の配置をしている。 家族の写真を飾られている方もいる。	馴染みの家具や加湿器等が配置され、個々に居心地良く安全な空間作りとなっている。また、日々窓を開けて換気したり、温度・湿度計を設置し快適・健康に過ごせる環境づくりに努めるなど、気持ちよく生活できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング内は、車いすの方も安全に移動できるように通路を広くとっている。自由に玄関に出て水やりをしたり花を見たりできるようにしている。 ソファや椅子、運動器具もあり、気分に合わせて過ごせる様にしている。		